

コロナ禍が2年目に入りましたが、皆様の支えで活動を続けています。

近況報告し、ご挨拶とさせていただきます。

例年、この時期は「ベトナムアンサンブルチャリティーコンサート」で創りました基金で、ベトナム戦争・枯葉剤爆弾被害者貧困家庭への支援と慰問・調査の報告をお届けしていましたが、2020年はコンサートが中止になり、手足を縛られたような状態でコロナ禍2年目となっています。2021年秋も「中止」の判断をしました。

この、活動にあたっての苦境がいつまで続くか。「菅・政治」との競争を強いられております。

●近況

IFCCの活動基盤である共同出資旅行社アイエフシーのため、去年は多大な協賛とご協力をいただき、現在、なんとか事務所維持し活動を続けています。しかし、丸2年に渡らんとする「雁字搦め」状態は、真綿で首を絞められているように効いてきています。IFCCの活動開始34年目を「自問」しながら、「自答」を模索しています。

●キューバ・ベネズエラ連帯

日本キューバ連帯委員会(CUBAPON)では、会報を例年より増やして3回発行してきました。他、資料パンフ『米国の労働者階級を擁護する』、『キューバ、5つのCOVID-19ワクチン開発』の発行、そしてEメール発信『フェイクに抗う中南米情報』は27回発信(2020年6月～現在)してきました。

いろんな交流イベントが「リモート」で開催されるようになってきましたが、“体感し、見聞する”ことの意味がますます重要になってきているようです。——活動詳細はCUBAPON会報をご覧ください——

●ベトナムでの友好活動

NPO 日本ベトナム平和友好連絡会議(JVPF)を通じた友好活動の柱は「枯葉剤爆弾被害者貧困家庭への支援」と「少数民族出身学生への奨学金の活動」です。この活動は、今年の1月、計画通り実施されました。

枯葉剤爆弾被害者貧困家庭への支援は、ベトナムアンサンブルチャリティーコンサートの中止にともなう寄付金募集で1,350,000円を創り、ハザン省で2軒の「仁愛の家」(実施総額1,430,000円)を寄贈。少数民族出身学生への奨学金はハザン省の少数民族寄宿中学校で40人に7,200US\$,ラムドン省少数民族寄宿高校で30人に450,000円(これは鹿児島JVPF実施)、がそれぞれ寄贈されました。

裏面に、この活動模様をJVPF 会員連絡報25号(2021/3)より転載いたしました。鎌田はこれらの活動に参加してきました。

予防医学を掲げコロナ禍でも優等生と言われていたベトナムですが、パンデミックが再発しました。訪問して

予防医学を掲げコロナ禍でも優等生と言われていたベトナムですが、パンデミックが再発しました。交流再開の訪問は当面遠のきそうです。

●悲報そして朗報

★IFCC 創立以来、キューバ、ベトナム、中国、ヨーロッパ諸国と、ほとんどIFCCと一緒に歩んできていただいた細谷久美子さんが昨年永眠されました。言葉に尽くせぬほど思い出があります。2014冬のJVPF ベトナム訪問団が最後の「旅」となりました。

謹んで、ご冥福をお祈りいたします。



ちなにみ、以下の出版もされ、鎌田も手伝いしてきました。

『枯葉剤に遭った子どもたち』(2011年 同時代社)、
『キューバ探訪——十七年』(2013年 IFCC 出版会)、
『学び、交流し、成長する「旅」の記録』(2014年 IFCC 出版会)

★アイエフシーの創立以来、監査役に就いていただいていた日高邦夫さんが2019年にご逝去されました。これは訃報ですが、日高さんへの追悼になる朗報が届きました。日高さんが取材をサポートされていた「キューバの日本人移民」をテーマとした映像記録『そしてイスラの土となる～日系キューバ移民の記録』が映像作家・鈴木伊織さんの手でこの度制作されることになりました。詳細はCUBAPON ニュース63号をご覧ください。 記：鎌田篤則

300,000,000 ドン (140 万円相当) 寄贈で2軒の『仁愛の家』建築へ (2021 年 1 月実施へ)



二軒目(左右)



【二軒目】写真上左、上右

- Đàng Thị Lầu, Ms (写真上左の右側) : 1948 年生まれ。民族: ダオ 族、住所: ハザン省バククアン郡ナムムオン村。
- 夫のバン・ヴァン・ナムさんは 1947 年生まれ、1979 年 2 月に軍に入隊し、ハ・トゥエン省 (現在のハザン) で戦争に加わり、除隊後 2017 年に病気で死亡。
- 3 人の息子。長男も 1984 年に国境警備隊に参加し、除隊後、労働事故で足を骨折し不自由で苦しむ。他の子供も非常に貧しい。



三軒目(上下)



【三軒目】写真左中・左下・右下
 ・Hoàng Ngọc Cam (右写真中央) : 1954 年生まれ。タイ族。住所: ハザン省 Vixuyen 郡 Vixuyen 町 Langrang 村。
 ・1971 年、入隊し戦場 B (南部) へ。1972 年、中部クアンチの戦場へ。1973 年 1 月、除隊し故郷へ。帰国後、結婚し、子どもは 1987 年生まれの末息子のホアン・ゴック・トゥイを含む 6 人 (息子 5 人、娘 1 人)。
 ・有毒化学物質の影響を受け神経異常の末っ子のトゥイとその子供の世話をしなければならず貧困。



奨学金支援事業の様相

ハザン省で少数民族出身中学生奨学金贈呈が去る 1 月 30 日ハザン省ヴィスエン郡少数民族寄宿中学校で行われ、二期生 4 年目=10 人、三期生 3 年目=10 人、四期生 2 年目 10 人、五期生 1 年目 10 人の都合 40 人に実施されました。――略

JVPF 宮崎支部は一期生 5 人が卒業したことを受け、新規の五期生 5 人の学生への奨学金支援を継続することにしました。

ラムドン省ダラット市で JVPF 鹿児島支部は 2020 年度ラムドン省少数民族高校への奨学金支援贈呈を実施。テト (2 月 12 日) 前の贈呈を予定していましたがコロナ禍の再発で学校が急遽休校になったため、テト明けの 3 月 13 日 (土) に実施され、JVPF ホーチミン事務所のルオンさん (村山日本語学校校長) が奨学金を贈呈しました。

今回も 1 年生=10 人、2 年生=10 人、3 年生=10 人の都合 30 人に奨学金が届けられました。このラムドン省での少数民族出身高校生への奨学金支援事業は今回が 8 年目で、今期の新 1 年生 10 人が最終期奨学生となります。



上…ハザン省で
下…ラムドン省で

